



健診標準フォーマットの現状

POST.ex[®]ver4.0、HASTOS[®]のご紹介

趣旨:

- 1) POST.ex ver4.0 への変更 HASTOS経由はすべてver4.0 となる
- 2) ダウンロード型POST.exをHASTOSを経由したサーバー型POST.exに変更する

経緯:

- 1) POST.ex導入施設が増加している
 - ・ 現在500か所を超え、今年度中に700-800か所に増加見込み
- 2) 保守メンテナンスを各施設の担当者とメールで対応することに限界
 - ・ 全施設のマスタファイルなどを同時にメンテナンスできない
- 3) セキュリティ面でウイルスチェックが今後厳しくなる
 - ・ POST.exの実行ファイルをダウンロードできなくなる

注意点:

- 1) 健診標準フォーマットへの変換はHASTOSサーバーで行う
- 2) 健診標準フォーマットは1500項目から2000項目に変更します
- 3) ダウンロード型POST.exのメンテナンスは年内に終了(予定)します

今後の予定

- 1) HASTOS利用申し込み開始しています
- 2) 来年度はHASTOSの社会実装に向けて新団体が契約を行い、有料化となる

健診項目名称、結果値及び画像所見用語などを標準化し、健診結果データの2次利用を実現するツールです。

2019年度から健診実施機関に対し導入を始め、現在、500超の健診実施機関が導入しており、健診標準フォーマットで健診結果データを健診実施主体に納品できる準備が整っている。年度内には700施設に拡大予定(健診機関名はホームページ参照)。

健診結果データの標準変換ツールの機能

- ✓ 各健診実施機関の独自CSVファイルを健診標準フォーマットの仕様CSV形式に変換する。
- ✓ 標準変換ツールに組み込む個別変換表は協議会が責任をもって限定された有識者だけが作成する。
- ✓ 画像所見標準用語の標準化作業は協議会が標準化検討委員会等の協力を得てメンテナンスを継続する。
- ✓ 画像所見用語は、変換ツール内で画像所見標準用語に置き換えることにしているため、画像所見標準用語の使用を健診実施機関に強要していない。
- ✓ 健診実施機関における画像所見用語及びそれぞれの機能別判定項目については原本を同時に登録する。
- ✓ 項目間の正確性を保つためにデータ間の相関チェックを行い、入力上限・下限値で範囲チェックを行う。
- ✓ 数値項目に「未満」「以下」「超」「<」「>」などの文字列が含まれる場合には「↑」「↓」で統一する。そのデータを個別システムに登録する場合には消去することを可能としている。
- ✓ 定期健診による労基署報告(様式6号)用フラグの論理を組み込んでいる。また、日本人間ドック予防医療学会のガイドラインに限定した標準判定も組み込まれている。
- ✓ 健診機関では機能別・臓器別判定が標準化されていないのですべての判定項目をシステム領域に登録し、健診実施主体(納品先用)の判定体系に対応すし、健診標準フォーマットを個別機関システムへの変換ツールも提供可能。
- ✓ 特定健診第4期に向けて健診標準フォーマットをCSV形式とHL7CDAXML形式に自動変換する。(JAHIS健診結果報告書標準規約に準拠する、HL7FHIRJSON 形式の提供も開発中)

健診標準フォーマット ver4.0 20240801

項番	大分類	中分類	ver4.0 : 20240801 標準項目名称・全角	
1	健診履歴情報	健診履歴情報	健診実施年月日	
2			健診実施機関番号	
3			健診実施機関名称	
4			健診管理用受診者ID1	
5			健診管理用受診者ID2	
6			健診分類・種別	
7			特定健診・特殊健診の同時実施	
8			健診コース名称	
9	受診者属性情報	受診者基本情報	カナ氏名	
10			漢字氏名	
11			英字氏名	
12			生年月日	
13			受診時年齢	
14			性別	
15			居住地郵便番号	
16			住所	
17			医療保険等関連情報	保険者番号
18				被保険者証等記号
19				被保険者証等番号
20				資格区分
21			所属情報	枝番
22				健診実施主体名称
23				勤務地郵便番号
24				所属名称
25	受診券管理番号			
26	業種			
27	職種			
28	システム管理情報	オプアウトコード		
29		検体検査委託先コード		
30		個別医療機関コード		
31		健診実施主体・送付先団体コード		
32		健診標準フォーマットバージョン情報		
33		送付先団体受診者管理コード		
34		標準交換ツール認証コード		
35		健診結果補足情報	特定健診管理項目	特定健診・受診券整理番号
36	特定保健指導・利用券整理番号			
37	特定健診・受診券有効期限			
38	特定健診検査実施理由等		貧血検査の実施理由	
39			血清クレアチニンの詳細対象者	
40			血清クレアチニンの実施理由	
41			心電図検査の詳細対象者	
42			心電図検査の実施理由	
43			眼底検査の詳細対象者	
44	眼底検査の実施理由			
45	労基署集計有所見フラグ		聴力1000Hz有所見フラグ	
46			聴力4000Hz有所見フラグ	
47		聴力会話法有所見フラグ		

修正履歴

ver4.0

ver3.3_ver4.0の比較

標準用語

標準用語 (画像所見・継続的に改訂)

- ✓ HASTOSを經由して変換されたデータは健診標準フォーマット(KMAT)ver4.0となる。
 - ・ 32項目目 健診標準フォーマットバージョン情報 例:Ver4.0-20240924
- ✓ これまでどおり、項目名は変更されるが登録されている内容は同一である。
- ✓ 項目数は1500から2000項目に増加する。
(変更点は以下の通り)
 - ・ 1491からPHR用健診機関自由設定領域(健診機関と健診実施主体で決める)
 - ・ 1501項目以降は検査項目別の判定が登録される。
- ✓ 標準項目名称は全角とし、()カッコは使用していない。
- ✓ HL7FHIR対応のために英文字の'-'は全角の'-'を用いている。
- ✓ データ項目の長さは基本最大32バイトとし、画像所見、自他覚症状、既往歴などは最大256バイトとした。
- ✓ 特殊健診の一部は最大512バイトとなっている。
- ✓ 項目の文字属性は文字列(全角及び半角)と数値、日付とした。
- ✓ パニック値という用語を入力下限参考値、上限参考値と修正し、約20万例のデータをもとに分布の上下約2%を考慮した数値とした。(見直し中)

修正日	項番	変更前標準名称	変更後標準名称
20240801	141	足関節上腕血圧比・ABI・右	格納形式 0.0# → 0.0
20240801	142	足関節上腕血圧比・ABI・左	格納形式 0.0# → 0.0
20240801	294	HBs抗原定量	格納形式 #0.000 → 0.000#
20240801	425	特定・喫煙習慣（第3期）	特定3期・喫煙習慣等付帯情報
20240801	851	尿中・パラ-アミノフェノール量	尿中・パラアミノフェノール量
20240801	865	865予備	尿中・亜硝酸塩
20240801	943	末梢神経機能検査・振動覚・右環指	末梢神経機能検査・振動覚・左環指
20240801	944	末梢神経機能検査・振動覚・右小指	末梢神経機能検査・振動覚・左小指
20240801	1252	子宮頸がん	子宮頸がん検診
20240801	1491-1500	1491予備から1500予備	PHR用フィールド
20240801	1501-2000	予備	判定項目の追加
20240801	117	230_眼底所見 その他の所見AL	その他の所見AL → その他の所見AL
20240801	163	150_喀痰細胞診（クラス分類）	クラスIIIa → クラスIIIa
20240801	163	150_喀痰細胞診（クラス分類）	クラスIIIb → クラスIIIb
20240801	433	ほとんど間食しない	ほとんど摂食しない
20240801	105、106、107		眼底Keith-Wagener標準所見名称追加「(KW)II群」
20240801	標準用語 230新福田分類	G：虚血性視神経症	N：虚血性視神経症
20240801	標準用語 300判定	判定保留	判定不能
20240801	標準用語 850（特定） 喫煙習慣・第4期	最近1ヶ月間は吸っていない	最近1ヶ月間は吸っていない
20240801	標準用語 942（特定） 初回面接実施		健診1週間以内に初回面接実施
20240801	785	血液・キノソイミン量	血液・キノンイミン量
以上			

HASTOS経由で健診標準フォーマットでの納品を要請する健診実施主体が増加する
今年9月以降にHASTOSの利用が見込まれている企業

代行機関 ・ R 社、 B 社、 W 社
企業・健保 ・ J 社、 O 社、 D 社 等、6社が計画

変換前CSVの作り方

- ・ 命名規則 → 納品先名称を入れる（誤送受信防止のため、詳細別途）
- ・ 変換前CSVは納品先が増えても1種類とする
納品先で納品項目が増えたら、最後尾に項目追加する。

エラーの確認について

- ・ 致命傷 → 項目数の違い(処理未完了)
- ・ ワーニング → データの妥当性確認(相関チェック等)
- ・ マスタエラー → 事務局によるマスタ修正が必要

500超施設(将来1,500施設)
当面目標: 2000万人分

2024.9
社会実装開始

2024.9以降
6施設が導入

HASTOS®

保険局からの要請
社会基盤への接続

健診機関

健診システムから健診結果データを**1様式の仕様**で納品先別にCSVファイルを作成し、納品先にアップロードする。

CSV

PDF

CSVファイルを作成することができない健診機関は協議会が指定する専用用紙に転記し、医師名を明記しPDFでアップロードする。

アップロード

サービス
利用
規約

HASTOS®

日本医学健康管理評価協議会の
構成10団体により設置運営
(日本医師会契約のIDCセンター利用)

- データの外的・内部的な標準化が目的
- 全ての健診機関の変換テーブルを維持メンテナンスしている。
- データアップロード後、数分で健診標準フォーマットへの自動変換が終了する。
- 各自施設には変換エラーがないことを確認して納品することが原則。
- すべての健診結果は健診標準フォーマットに変換されその後、納品先が希望する形式(CSV、XML、JSON、個別CSV)で納品される。



サービス
利用
規約

ダウンロード

健診実施主体

保険者

事業主

健診データ
取纏め機関

自治体

DX基盤

医療情報システム安全管理ガイドライン第5. 1版準拠
TLS1.2以上暗号化 HTTPS or IPsecVPN
加えて 多要素認証を採用

DXに向けて対応が
必要(80,000か所)

HASTOSのサービスの概要

・HASTOSへの移行理由

POST.ex導入機関が500を超え、これまでのダウンロード型POST.exのメンテナンスは限界となった。タイムリーで施設側にも負担が少ないサーバー利用型に移行する。

・HASTOSサービス(標準)

健診機関から健診実施主体に健診標準フォーマットで納品するサービスで、健診実施主体では健診標準フォーマット(CSV形式、XML形式、JSON形式)のデータ形式を選択できる。また、CSVデータを簡単に作成できない健診機関は協議会が定める専用用紙に記載された紙の結果報告書をPDFでHASTOSに送信することで健診標準フォーマットに自動変換できる。

・HASTOSダイレクト (HASTOS.direct)

健診実施主体が独自のサーバーを立て、完全にHASTOS機能に同期させて利用するサービス形態です。健診機関はHASTOSのポータルを經由して変換前CSVをアップロードすれば健診実施主体のフォルダーに健診標準フォーマットで納品できる。

・HASTOSプラス (HASTOS.plus)

健診実施主体以外の団体からの依頼で健診機関あるいは健診実施主体の同意を得たうえで健診結果にHASTOSを經由した証(BC)を付加して指定されたサーバーにデータを流通させることができる。(PHRサービス機関、AIホスピタル関連機関等への連携)

・POST.exオンライン(ブーメランサービス)

健診機関は自施設のために健診標準フォーマットに変換することができる。また、健診実施主体ではこれまで蓄積していたデータを健診標準フォーマットに変換することもできる。

(注)POST.exとは 健診機関が用意する変換前の健診結果データ(CSV形式)を業界標準の健診標準フォーマットに変換するツールがPOST.ex、健診標準フォーマットをHL7CDA規約JAHIS標準に準拠したXML形式に変換するPOST.ex7、HL7FHIR規約に準拠したJSON形式に変換するPOST.ex7、健診実施主体の基幹システム仕様に変換するPOST.ex2が用意されている。